

第2章

発達段階に応じたキャリア教育の充実

テーマ6 「職場体験活動・インターンシップ等の推進」

■ 背景(課題)

子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の一員としての自分の役割を果たしていくために必要となる、人間関係を築き上げていく力や、課題を発見し解決していく力などのさまざまな能力は、子どもたちの成長過程と深く関わりながら発達していくため、小・中学校、高等学校等の学校段階ごとの取組を考え、それらを系統立ててつながりのあるものとしていくことが大切である。

そのため、県教育委員会では、学校段階ごとにさまざまなキャリア教育に関する事業を系統的に展開し、子どもたちの社会的・職業的自立に向けた諸能力と望ましい勤労観・職業観を育てているところである。

また、私立学校においても、多様な事業所におけるインターンシップの実施や、幼稚園での保育実習等、充実したキャリア教育が実施されている。

■ 関連する施策の実施状況

・ 小学校での取組

高学年を対象に、モノづくりを体験したり、モノづくりの達人から仕事に対する思いを聞いたりする「夢をはぐくむ あいち・モノづくり体験」事業を実施。

・ 中学校での取組

全公立中学校（名古屋市を除く）で「あいち・出会いと体験の道場」推進事業を実施し、職場体験と事前・事後指導を通して、子どもたちの働くことや学ぶことに対する意欲の向上を図った。

・ 高等学校での取組

全ての県立高等学校（全日制）での、インターンシップやジョブシャドウイング等の体験活動を充実させるとともに、専門高校等では産業界や上級学校で活躍するプロフェッショナルを招へいし、各教科の専門分野における知識・技能について指導を受けた。また、工業高校生の技術・技能の習得を図るため、ものづくりに関心の高い生徒を対象に、高度で実践的な技術・技能を身に付ける10日間程度の企業実習を実施した。

・ 特別支援学校での取組

小学部を対象とした職場見学、中学部を対象とした就労体験活動、高等部を対象とした現場実習をそれぞれ実施した。

取組の成果

小学校でのモノづくり体験では、子どもたちは意欲的に取り組み、働くことの苦労や大切さを感じ取ることができた（図表1）。

【図表1：夢をはぐくむ あいち・モノづくり体験アンケート結果】

アンケート内容	そう思う	おおむね そう思う	あまり思 わない	思わない
(児童) 働くことの苦労や大切さを学べた。	71.8%	22.9%	3.8%	1.6%
モノづくり体験は、働くことの意欲を (講師) 高めたり、大切さを学んだりするのに 有効であったか。	76.0%	20.9%	3.1%	0.0%
(講師) 子どもたちは、意欲的に取り組んでいたか。	92.2%	7.8%	0.0%	0.0%

中学校での職場体験では、前年度の課題を踏まえ、活動の意義等を生徒に十分に伝えるなど、事前事後の指導の充実に努めた結果、昨年度以上に有意義な活動ができた（図表2）。

【図表2：あいち・出会いと体験の道場アンケート結果 上段 H24、下段 H25】

アンケート内容	そう思う	おおむね そう思う	あまり 思わない	思わない
(生徒) 働いている人の苦労や働くことの大切 さを学べた。	69.5%	26.0%	3.8%	0.7%
	72.5%	23.7%	3.3%	0.5%
職場体験活動は、子どもの働く意欲を (事業所) 高めたり、大切さを学んだりするのに 有効であったか。	52.4%	40.6%	6.0%	1.0%
	56.7%	37.1%	5.3%	0.9%

高等学校におけるインターンシップ等については、平成25年度中に体験した生徒数、平成25年度の卒業生のうち、在学中に1回以上体験した生徒数ともに前年度より増加しており、充実が図られている（図表3、4）。

【図表3：インターンシップ等の体験者数の推移】

年 度	21	22	23	24	25
生 徒 数	111,794人	114,560人	115,721人	117,351人	117,716人
体験者数	5,651人	8,183人	9,483人	9,982人	10,899人
体験者の 割 合	5.1%	7.1%	8.2%	8.5%	9.3%

【図表4：卒業生のうち在学中にインターンシップ等を体験した生徒数の推移】

年 度	21	22	23	24	25
卒業生数	35,864人	36,401人	37,003人	38,645人	37,451人
体験者数	4,630人	5,417人	6,197人	7,792人	8,136人
体験者の 割 合	12.9%	14.9%	16.7%	20.2%	21.7%

特別支援学校においても、発達段階に応じたキャリア教育が行われており（図表5）、実施した学校からは有意義な活動であったことが報告されている。

【図表 5 : 特別支援学校におけるキャリア教育推進事業の実施状況 (H25 年度)】

部	事業名	実施校数	実施人数
小学部	ふれあい発見推進事業	22校	241人
中学部	チャレンジ体験推進事業	22校	312人
高等部	就労支援推進事業	長期間現場実習	22校 303人
		県立学校職場実習	18校 219人

課題

子どもたちの発達段階に合わせて、系統的にキャリア教育を進めていくためには、学校の全教育活動との関連を図り、キャリア教育を学校の教育活動の中に適切に位置付けた指導計画を作成し、これに基づき計画的にキャリア教育を実施していく必要がある。しかし、キャリア教育に関する年間指導計画を作成していない小・中学校もまだあることから、年間指導計画の作成を学校に働きかけていく必要がある (図表 6)。

【図表 6 : キャリア教育に関する年間指導計画を作成している学校の割合】

年 度	24年度	25年度
小学校	48.6%	54.2%
中学校	81.3%	78.3%

高等学校では、特に普通科において体験者数、活動日数ともに少なくなっていることから、普通科での取組を一層強化していく必要がある。また、専門学科、総合学科においても活動日数が3日間程度にとどまっておき、より長期の活動に取り組んでいく必要がある。(図表 7、図表 8)。

【図表 7 : 学科別インターンシップ等体験者数及び割合 (H25 年度全日制 146 校)】

学 科	生徒数	体験者数	割 合	学 科	生徒数	体験者数	割 合
農 業	3,665	549	15.0%	看 護	241	201	83.4%
工 業	10,742	1,380	12.8%	福 祉	439	432	98.4%
商 業	9,425	2,140	22.7%	普 通	82,357	4,484	5.4%
水 産	452	83	18.4%	総 合	6,458	667	10.3%
家 庭	2,696	946	35.1%	その他	1,062	17	1.6%
				合 計	117,537	10,899	9.3%

【図表 8 : 学科別インターンシップ等の活動日数 (H25 年度 全日制 146 校)】

体験日数	1日	2~3日	4~5日	6~10日	11日~29日
普通科	62.1%	30.0%	5.5%	2.0%	0.5%
専門学科	14.3%	60.9%	11.1%	1.0%	12.7%
総合学科	12.6%	59.1%	25.4%	0.0%	2.8%
その他	43.8%	25.0%	18.8%	12.5%	0.0%
合 計	34.6%	47.8%	9.2%	1.3%	7.0%

特別支援学校の高等部卒業生の就職率は、平成25年度は38.1%と依然として横ばいであった（図表9）。就職率の向上を図るためには、現在活用が不十分である「キャリア教育ノート」（活用率20校・69%）及び「あいち夢はぐくみサポーター」制度（活用率2校7%）の活用を図り、学校でのキャリア教育を一層推進していくとともに、これまでの製造業を中心とした職場開拓だけでなく、幅広い業種での職場の開拓を図っていく必要がある。

【図表9：特別支援学校高等部卒業生の就職率】

年 度	21	22	23	24	25
就職率	38.4%	36.7%	37.4%	39.6%	38.1%

■ 今後の方向性

〈短期的に取り組むこと〉

- ・ 小・中学校では、全校で年間指導計画の作成・充実に努め、子どもたちの発達段階に応じた適切な指導を進めていく。とりわけ、本年度から実施する「地域に学び・語り継ぐ キャリア教育」推進事業の成果を広く啓発し、小学校での発達段階に応じた指導の充実に努める。
- ・ 高等学校では、キャリア教育の取組がまだ十分ではない普通科における体験活動の取組を強化するため、受入れ事業所の負担が比較的軽いジョブシャドウイングの取組を推進するとともに、多様な業種の事業所が登録され、協力いただける活動内容も多岐にわたる「あいち夢はぐくみサポーター制度」の活用を促していく。
- ・ 定時制高等学校におけるキャリア教育の充実や就業促進を目指して、「就職支援コーディネーター」を新たに配置し、インターンシップの推進や社会人講師を派遣するとともに、就職先の拡大を図る。
- ・ 特別支援学校では、「キャリア教育・就労支援推進委員会」を設置し、就職先の開拓、職域の拡大、就職先への定着支援を、関係機関が連携を取りながら効果的に進めていくことができる、新たな就労支援システムの構築を図る。

〈長期的に取り組むこと〉

- ・ 小・中・高等学校等が、子どもたちの発達段階に応じたキャリア教育を効果的に展開していくために、地域や産業界、関係機関との連携を深め、子どもたちへの指導を円滑に支援できる体制を構築する。
- ・ 高等学校の専門学科において、より高度な技術、技能に触れ、現在の学びを将来の職業につなげるため、10日間程度の比較的長期のインターンシップの実施を検討する。

（関係課室：高等学校教育課、義務教育課、特別支援教育課）

テーマ 7 「産業教育の充実」

■ 背景(課題)

本県は、製造品出荷額等が昭和52年以来36年連続して全国1位を誇るものづくり立県であり、高等学校における産業教育等を通して、これまで幅広い分野で産業・社会を担う人材を輩出してきた。

しかし、科学技術の進歩等による技術の高度化や社会経済・産業的環境の国際化が急速に進展している現在においては、時代の変化に適切に対応しながら本県の産業を支えていくことのできる人材の育成を図るために、産業教育の充実を計画的に進めていかなければならない。

■ 関連する施策の実施状況

・「第23回全国産業教育フェア愛知大会」の開催

専門学科等で学ぶ全国の高校生等が、研究発表や作品展示、各種コンクール等により、日頃の学習成果を広く県内外に発信した。

《第23回全国産業教育フェア愛知大会》

日時：平成25年11月9日(土)・10日(日)

場所：愛知県産業労働センター、愛知県体育館、刈谷市産業振興センター、刈谷市総合文化センター

来場者数：延べ107,800人

参加校数：395校(県内109校、県外286校)



・キャリア教育推進事業(地域ものづくりスキルアップ講座)の実施

今後の地域産業界を担う人材の育成を目指し、工業高校の教育課程に地域の企業との連携プログラムを組み込み、産業界のニーズを踏まえた実践的な技能を習得する講座を実施した。

・「愛知県立愛知総合工科高等学校」の開設準備

本県の工業教育の中核となる「愛知県立愛知総合工科高等学校」の開設準備の一環として、企業が求める人材の把握や現場実習の受入れの協力等の課題を解決するために、県内の航空宇宙産業関連企業や工作機械メーカーを中心に企業訪問を実施した。

なお、総合工科高等学校は当初平成27年4月の開校を予定していたが、建設工事の入札不調により、開校を平成28年4月に延伸した。

■ 取組の成果

全国産業教育フェアでは、生徒が、作品制作や発表などを通じた学習や全国の

高校生との交流の中で、課題を探求し解決する力や自ら考え行動し適応していく力、コミュニケーション力などの、将来、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる力を高めるとともに、将来のスペシャリストとしての自覚と専門分野を学ぶことの誇りを醸成することができた。

また、本県が誇るものづくりの総合力等、日ごろの学習で身に付けた知識・技術のすばらしさを紹介することで、全国有数の産業立県である本県の産業教育の取組について、産業界、教育界及び一般に広く周知することができた。

加えて、開催準備の過程で企業から積極的にアドバイスを受けることで、今後の産業界と連携した産業教育の推進に向けて道筋を付けることができた。

■ 課題

産業教育フェアの成果を一過性のものとせず、今後の本県の産業を担う人材の育成につなげていくために、各地域の産業団体や市町村との連携・強化を一層推進し、地域のイベント等への参加を含めて、生徒の発表の場を積極的に設ける必要がある。

また、地域ものづくりスキルアップ講座の協力企業からは、参加した生徒の基本的な知識・技術及び技能の不足を指摘する回答があることから、社会的・職業的自立に向けて必要な、基盤となる能力や態度の育成がさらに求められている（図表1）。

なお、専門分野に関する知識、技術及び技能を育成するためには、施設・設備の充実が必要である。しかし、県立の専門学科等の産業教育施設・設備は、老朽化したものや陳腐化したものも多くあることから、施設・設備の更新・充実を図っていく必要がある。

【図表1：協力企業アンケート結果】

生徒は、研修に必要な基本的な知識・技術及び技能をもっていたか。	
十分もっていた	11%
まあまあもっていた	70%
やや不足していた	13%
まったく不足していた	4%
その他	2%

■ 今後の方向性

〈短期的に取り組むこと〉

産業教育フェアで得た貴重な経験を生かし、今後、各地区において、より地域に密着した形で、「あいちさんフェスタ」を開催する。

〈長期的に取り組むこと〉

中・長期的な視点に立った産業教育施設・設備の整備計画を策定し、計画的な更新・整備を図っていく。

各地域の産業団体や市町村との連携・協力を一層推進し、生徒の発表の場を積極的に設けるなど、体験的な活動を充実させる。

（関係課室：高等学校教育課）

～私立高等学校における職場体験活動・インターンシップ

・産業教育の取組事例から～

- ものづくりへの関心を高めることを目的に、愛知工業大学の研究室を訪れ、大学での研究の一端を体験し、上級学校である大学での最先端の学問を学ぶ「Meiden Labo in AIT」を年間5回実施。オープンラボ、ケミカルラボ、パワーラボ、コントロールラボ、マニファクチャーラボ、デザインラボ、ラウンジラボ等の実習施設を整備し、生徒が自ら体験実習する施設の充実を図る。
【愛知工業大学名電高等学校】
- 2年生時に3日間のインターンシップを実施【愛知産業大学工業高校】
- 将来の進路決定に役立てるため、看護体験・私立幼稚園実習に積極的に参加。簿記、情報処理、電卓、ワープロ、食物、被服、情報処理などの各種検定の上位級取得を推奨。「ものづくりマイスター制度」を利用した和菓子作り体験の実施。【愛知みずほ大学瑞穂高等学校】
- 保育コースの、2・3年生の生徒が保育実習を体験。1年生を対象に、現在社会人として活躍している卒業生を講師として招いて、今の仕事の様子について話をする「先輩を囲んで」（卒業生講話）を実施。【桜花学園高等学校】
- インターンシップ、職場体験（幼稚園実習）の実施。【菊華高等学校】
- 商業科第2学年で、夏季休業中に3日間の職場体験を実施。
【至学館高等学校】
- 5日間のインターンシップの実施及び報告会の実施。【東邦高等学校】
- ハローワークのジョブサポーターの協力の下、職業適性検査、検査結果説明会、模擬面接会を実施。学校独自の校内技術顕彰制度を創設。一定級に合格することにより受験料を返金する等の資格支援制度。【名古屋大谷高等学校】
- 職業人インタビュー・企業訪問（総合学科1年次）、保育園・介護施設と連携した数か月にわたる交流活動（地域交流系列2年次）。
【名城大学附属高等学校】

- 普通科1年生全生徒が自分の進路希望に応じて、30から40の事業所（地元市役所、企業、保育所など）の中から選択し、3日間の職場体験を実施。平成25年に新設した「全日制看護科」と設置46年目を迎えた「昼間定時制衛生看護科」でそれぞれ正看護師、准看護師を養成。【愛知黎明高等学校】
- ジュニアインターンシップ、私立幼稚園体験学習、一日看護体験研修、臨床工学技師職場体験等。【修文女子高等学校】
- NPO法人アスクネットと連携し、2年生を対象に2・3日のインターンシップ及び事後の報告会を実施。「産業社会」の講座の開講。「職業別ガイドンス」を1年生対象に開講。【誠信高等学校】
- 1年生が、病院、幼稚園、福祉施設で年3回の看護福祉体験学習を実施。【清林館高等学校】
- 工場見学会、看護体験研修、幼稚園体験学習を実施。アーク溶接技能検定、旋盤技能検定、ボイラ取扱技能講習、全国高等学校ロボット競技大会参加。【中部大学第一高等学校】
- キャリア開発の授業を実施。【日本福祉大学附属高等学校】
- 幼稚園での職場体験学習の実施。【誉高等学校】
- 商業科インターンシップ「BIGプロジェクト」として、社会人講師によるキャリア教育授業（年8回）、インターンシップ体験授業（23社へ50人参加）。【安城学園高等学校】
- 医療、看護、保育を希望している生徒を対象に、夏季休業中に病院、施設、幼稚園での体験活動を実施。【岡崎城西高等学校】
- 福祉介護実習、高齢者デイサービス・障害者・保育実習、職場体験学習の実施。【豊田大谷高等学校】

（愛知県私学協会とりまとめ 平成26年6月）

テーマ 8 「グローバル化への対応」

■ 背景(課題)

グローバル化の進む社会で活躍できる人材を育成するためには、世界共通語として重要度がますます高まっている英語教育を充実し、若者の英語力やコミュニケーション能力の向上を図る必要がある。

また、海外留学や在外経験を積むことで、アジアを始め諸外国の異文化についての理解力を高めるとともに、自らの国や地域の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を醸成することも重要である。

■ 関連する施策の実施状況

平成25年3月に策定された「あいち国際戦略プラン」における戦略分野の一つである「国際人材戦略」の一環として、「あいちグローバル人材育成事業」を立ち上げ、以下の3事業を中心に取り組んだ。

・ あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業

英語を高いレベルで使いこなす人材の育成を目指して、英語教育の拠点となるハブスクールを県内12の地区ごとに指定し、ハブスクールを中心に各地区で、大学教授等の指導の下、英語の授業改善を目的とした研究授業や研究協議などの研修を実施した。また、各地区で高校と近隣の小・中学校とが、事業の成果を共有するための連携協議会を実施した。

・ イングリッシュキャンプ in あいち

さまざまな国の人たちとオールイングリッシュの共同生活を送るイングリッシュキャンプを夏季と冬季の2回開催し、英語に対する自信と興味・関心を高めるとともに、異文化体験を通して相互理解の大切さを学んだ。



【イングリッシュキャンプ in あいち】

・ 高校生海外チャレンジ促進事業

県立高等学校に在籍する生徒自らが企画提案した、海外における短期留学、海外ボランティア活動、海外インターンシップ等の活動を実現するための費用を助成した。

なお、私立学校においても、姉妹校等との交換留学の実施や海外語学研修、ネイティブの教員によるオールイングリッシュの授業の実施など、グローバル人材を育成するための取組が積極的に行われている。

■ 取組の成果

ハブスクール事業では、研究授業を通して「英語で行う授業」についての理解が深まるとともに、講義形式の授業から脱却した授業を行うための、ペア・ワークやグループ・ワークの進め方、ワークシートの活用方法などについてのアイデアを共有することができた。

イングリッシュキャンプでは、終了後の生徒のレポートに「英語を話す勇気を手に入れた」、「英語で考えて英語で話す感覚を手に入れることができた」、「相互の壁を取り去ればもっといい関係を築くことができることを再確認した」などの記載があり、英語力の向上や異文化理解の点で成果が見られた。

海外チャレンジでは、生徒の報告書から本事業が英語力や異文化への興味・関心を高めることができたことがうかがわれる。

■ 課題

ハブスクール事業では、生徒による言語活動を充実させるための方策にはまだ工夫が必要である。また、学習到達目標の達成を評価するための方法にも、客観性や妥当性の観点から改善の余地が見られる。高等学校と近隣の小・中学校との事業成果の共有については、地区により取組の程度に差があり、県全体での教員の英語指導力の向上は今後も重要な課題である。

イングリッシュキャンプは各回60名の定員に対し、応募者が各回とも500名を超え、参加希望者のニーズに十分に答えることができなかった。

海外チャレンジは応募が少なく、定員18名に対して20名の応募人数にとどまったことから、積極的な広報等を行う必要がある。

■ 今後の方向性

〈短期的に取り組むこと〉

ハブスクール事業の取組としては、国の英語中央リーダー研修に4名の教員を派遣し、英語教育の推進者を育成する。また、高校と小・中学校との連携が一層深まるよう、働きかけることにより、県全体の英語力の向上を促進する。

イングリッシュキャンプは、実施回数を年3回、各回80名の定員とすることで、募集人数を25年度の倍となる240名とし、生徒の参加意欲にできる限り応えられる体制とする。

海外チャレンジは、参加者による発表を行う場を設けるなど、事業の周知に努める。

〈長期的に取り組むこと〉

英語など語学力の向上はもとより、異文化を受け入れる精神性や、異文化の中でたくましく生き抜く力、自国の文化を理解したうえで対等に語り合うことのできる力を身につけた人材の育成にむけ継続して取り組んでいく。

(関係課室：高等学校教育課、義務教育課)

～ 私立中学校・高等学校におけるグローバル化への対応の取組事例から ～

- 総合学習での「国際理解」をテーマとした研究。2年生次のオーストラリア海外修学旅行の実施。【愛知みずほ大学瑞穂高等学校】
- 付属の大学、短大の外国人講師を招いて、英語によるコミュニケーション能力を養うため、ネイティブ教員による全て英語の授業を展開。オーストラリアと台湾にある姉妹校と春・冬に交流。【桜花学園高等学校】
- ニュージーランドへの長期留学。【菊華高等学校】
- 高校での、地歴公民科と英語科の合科科目「World Studies」、地歴公民科「社会問題」、第2外国語「フランス語」「ドイツ語」「中国語」「韓国朝鮮語」。【金城学院中学校高等学校】
- 普通科留学コースでの、1年次後半から1年間のニュージーランドへの留学。
【至学館高等学校】
- 中国とオーストラリアの姉妹校の留学生受入。南京外国語学校の生徒との手紙交流。サウジアラビア・韓国・マレーシア・インドネシア・スリランカの国々の高校生の受け入れ、交流。ニュージーランドへの夏期英語研修への参加。【東邦高等学校】
- 中学での全校あげてのレシテーションコンテストの実施。【名古屋中学校・高等学校】
- オーストラリアのブラックフライヤーズ高校と隔年でホームステイ交流を実施。
【名古屋大谷高等学校】
- ネイティブファカルティによる英語教育活動（GLP、JuniorGLP、TalkTime）、国際理解講演会（愛知県の多文化共生社会づくりの推進）、国際教育プログラム（海外研修）、学校間国際協定（姉妹校）。【名古屋国際中学校・高等学校】
- スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業、「多文化共生」授業（国際クラス）、海外修学旅行（ニュージーランド、ハワイ、台湾）、TOEIC・実用英語検定の受検（国際クラス）。【名城大学附属高等学校】
- 2年生全員が5日間～8日間の海外修学旅行を実施、ロータリークラブ等を通じた約1年間の長期留学の実施、カナダ・ニュージーランドへの短期留学の実施、隔年での、夏季休業中のハワイ・オーストラリアでの語学研修の実施、ロータリークラブ主催の長期留学生受け入れ、様々な交流プログラムで来日する留学生の受け入れ。【愛知啓成高等学校】
- 異文化理解ワークショップと開発教育により、多文化共生時代を担う人材を育成。海外の高校生が滞在する国際交流週間プログラムでは、本校生徒が企画、運営を担っている。【愛知黎明高等学校】

- 姉妹校であるニュージーランドのダニバーク高校との間で、代表生徒と教員の訪問、交流の実施。ホームステイでの異文化体験とともに、全校集会での歓迎レセプション、授業への参加、生徒主催の歓迎パーティ等を実施。【栄徳高等学校】
- 「星城高校版スーパーグローバルハイスクール」
アジア学、英語講座、夏季休業中のイングリッシュキャンプを実施。
【星城高等学校】
- 姉妹校との交換留学（1年間留学）（オーストラリア・ニュージーランド・台湾）・語学研修の実施。【清林館高等学校】
- カナダへの1年間の留学を必須とする英語留学コースを新設。30名程度の希望生徒による、カナダ・バンクーバーでの語学研修の実施。JICAを通じた東ティモールからの親善使節団の受け入れ。フィンランドや中国からの留学生の受け入れ、本校生徒のカナダへの長期留学の実施。これらの取組により、現在の社会に必要とされるグローバルな人間の育成を目指す。【大成高等学校】
- リスニング英語検定受検（機械電気システム科全員）、実用英語検定受検（普通科全員）、総学における「異文化理解」の実施（2年生希望者）、海外修学旅行の実施（2年生希望者）。【中部大学第一高等学校】
- 短期語学研修（イギリス）、長期語学研修（オーストラリア）、ワールド・コース・ミーティング（福祉大主催）に参加。【日本福祉大学附属高等学校】
- 短期留学前補習、映画を通して英語を学ぶ取組を実施。【誉高等学校】
- ・英語コースセミナー参加。
・音読指導を中心にすえた模擬授業、IIBC（国際ビジネスコミュニケーション協会名古屋支所）、保育士、自動車ディーラー等の職種で英語を活用しているロールモデルを視聴等。
・新しい英語授業の模索として、ipadの活用・スカイプを利用した英会話や、デジタル教科書とPCを使った授業を実践。【安城学園高等学校】
- ・1年全クラスでの外国人講師（英）と日本人教員による共同授業の実施
・夏季休業中2週間オーストラリア・冬季休業中1週間カナダ語学研修の実施
・選択制修学旅行の中に台湾コースを設置。【岡崎城西高等学校】
- ・外国人講師によるネイティブ英語授業を一部コースで実施、
・オーストラリアの高校と短期交換留学プログラムを実施。【豊田大谷高等学校】
- 米国、オーストラリアからの留学生の受け入れ、姉妹都市への留学生派遣。【豊橋中央高等学校】

（愛知県私学協会とりまとめ 平成26年6月）

■ 効果指標の達成状況

指標：キャリア教育の年間指導計画を作成している学校の割合(小・中学校)

目標：100%(27年度)

【25年度の状況】

◆小学校は前年度を上回り、中学校は前年度を下回っている。

※子どもたちの発達段階に応じたキャリア教育が進められるよう、年間指導計画の作成・充実を働きかけていく。

※特に、小学校においては、平成26年度から実施する「地域に学び・語り継ぐ キャリア教育」推進事業の成果を広く啓発し、指導の充実に努める。

■本県実施調査の結果

年 度	24年度	25年度	26年度	27年度
小学校	48.6%	54.2%		
中学校	81.3%	78.3%		

※ ○は、目標を達成している項目である。

指標：インターンシップ等を実施する全日制県立高等学校の割合

目標：100%(27年度)

【25年度の状況】

◆前年度に引き続き目標を達成した。

※全校でインターンシップ等の取組が行われているものの、在学中にインターンシップ等に取り組んだ生徒の割合が21.7%(平成25年度)とまだ十分でないことや、特に普通科高校での取組が進んでいないことから、ジョブシャドウイングの取組の推進や「あいち夢はぐくみサポーター」の活用により、キャリア教育の一層の充実を図っていく。

■本県実施調査の結果

年 度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
実施率	73.2%	96.0%	○ 100%	○ 100%	○ 100%		

※ ○は、目標を達成している項目である。

指標：特別支援学校高等部卒業者の一般就労の就職率

目標：50%(27年度)

【25年度の状況】

◆前年度より1.5%の減となっている。

※今後も小学部を対象とした「ふれあい発見推進事業」や中学部を対象とした「チャレンジ体験推進事業」、高等部を対象とした「就労支援推進事業」により、作業学習や産業現場等における実習に積極的に取り組む。また、関係機関とのネットワーク作り、新規事業である「愛知・つながりプラン推進事業」における、高等学校との交流・共同学習や職業コースの設置などの研究を踏まえ、特別支援学校高等部卒業者の一般就労の就職率の向上を目指す。

■特別支援学校の幼児児童生徒の実態調査の結果

年 度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
就職率	38.4%	36.7%	37.7%	39.6%	38.1%		

※ ○は、目標を達成している項目である。

指標：あいち夢はぐくみサポーターの登録数

目標：前年度に比べて増加する。(毎年度)

【25年度の状況】

◆23年度より登録を開始した「あいち夢はぐくみサポーター」については、幅広い業種から、多数の事業所の協力を得ることができ、目標を達成することができた。

※今後も登録事業所の充実を図り、学校のキャリア教育が円滑に実施できる体制を整えていく。

■あいち夢はぐくみサポーターの登録事業所数

年 度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
登録数	—	23 事業所	○ 349 事業所	○ 814 事業所		

※ ○は、目標を達成している項目である。

指標：全国学力・学習状況調査で「勤労観・職業観」に関する項目に肯定的に答えた児童生徒数の割合（小・中学校）

目標：全ての項目で全国平均を上回る。（毎年度）

【25年度の状況】

◆小・中学校ともに目標を下回っている。

※子どもたちが将来の進路選択や職業に夢や希望を持てるように、家庭や地域との連携を大事にしながら、学校でのキャリア教育の一層の充実を図っていく。

■全国学力・学習状況調査(文部科学省)の結果

小 学 校		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
将来の夢や目標をもっていますか。	本 県	86.3%	—	86.2%	87.4%		
	全 国	86.8%	—	86.7%	87.7%		
家の手伝いをしていますか。	本 県	78.9%	—	79.9%	80.0%		
	全 国	80.2%	—	80.7%	80.5%		

中 学 校		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
将来の夢や目標をもっていますか。	本 県	70.0%	—	71.5%	70.8%		
	全 国	71.7%	—	73.2%	73.5%		
家の手伝いをしていますか。	本 県	62.4%	—	65.1%	62.0%		
	全 国	64.8%	—	66.0%	64.5%		

